

2025年7月

「ファイナンシャル・ウェルビーイングと金融リテラシーに関する意識と実態調査」(2025年)より

金融リテラシーが拓くウェルビーイングなミライ -資産形成制度普及には「知る」・「使う」の二重の障壁あり-

三井住友信託銀行

三井住友トラスト・資産のミライ研究所

研究員 榎本 希

1. 調査名：「ファイナンシャル・ウェルビーイングと金融リテラシーに関する意識と実態調査」(2025年)
2. 調査対象：全国の18～69歳 ただし関連業種(金融、調査、マスコミ、広告)従事者を除く
3. 調査方法：WEBアンケート調査
4. 調査時期：2025年1月
5. サンプルサイズ：11,435
6. サンプルの属性(年代別)

18－29歳	2,103
30－39歳	1,944
40－49歳	2,443
50－59歳	2,707
60－69歳	2,238

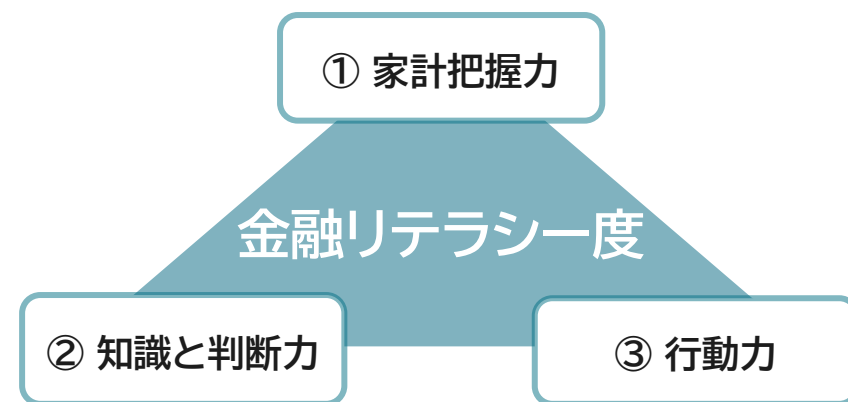
7. 備考：図表は端数処理の関係上、合計で100%とならない場合があります

- 「家計と金融リテラシー」に関するアンケート設問を設定し、「①家計把握力・②知識と判断力・③行動力」*を測定
- 三要素の総合得点から「金融リテラシー度」を三段階(良好・順調・不足気味)として算出し、スコア化

*①家計把握力:家計の現在把握や将来への備え ②知識と判断力:金融関連の知識 ③行動力:資産形成・活用に関する意識

「家計と金融リテラシー」に関するアンケート設問

Q	あなたは、あなたご自身(もしくはあなたのご家族)のライフプランを立てていますか。
Q	あなたは、計画しているライフプランに応じた資金準備(もしくは資金準備の算段)をできていると感じますか。
Q	あなたは、世代の異なるご家族と、お金について会話していますか。 (例:子供や親、祖父母などと、資産運用・管理・継承について など)
Q	あなたは、あなたの世帯の1ヶ月の収入額と支出額をしっかりと把握していますか。
Q	一問一答リテラシークイズ (全10問)
Q	あなたは、金融商品(預金、有価証券、保険など)を選択する際に、誰かに話を聞いたり、新たに情報を探したりしますか。
Q	次の各種制度をご存じですか。(複数回答可) ※財形・DC・iDeCo・NISAなど
Q	(知っているものについて)その制度を利用していますか。
Q	同年代と比較して、ご自身の金融リテラシーは高いと思いますか。
Q	あなたは、世帯主(あなたご自身)の病気や怪我、事故などにより一時的に収入が減少する場合に備えて、生活資金を準備できていると思いますか。
Q	あなたは、自己実現(幸せ)に向けてお金の面で苦労していますか。



総合得点別「金融リテラシー度」判定結果

0-33点 34-66点 67-100点

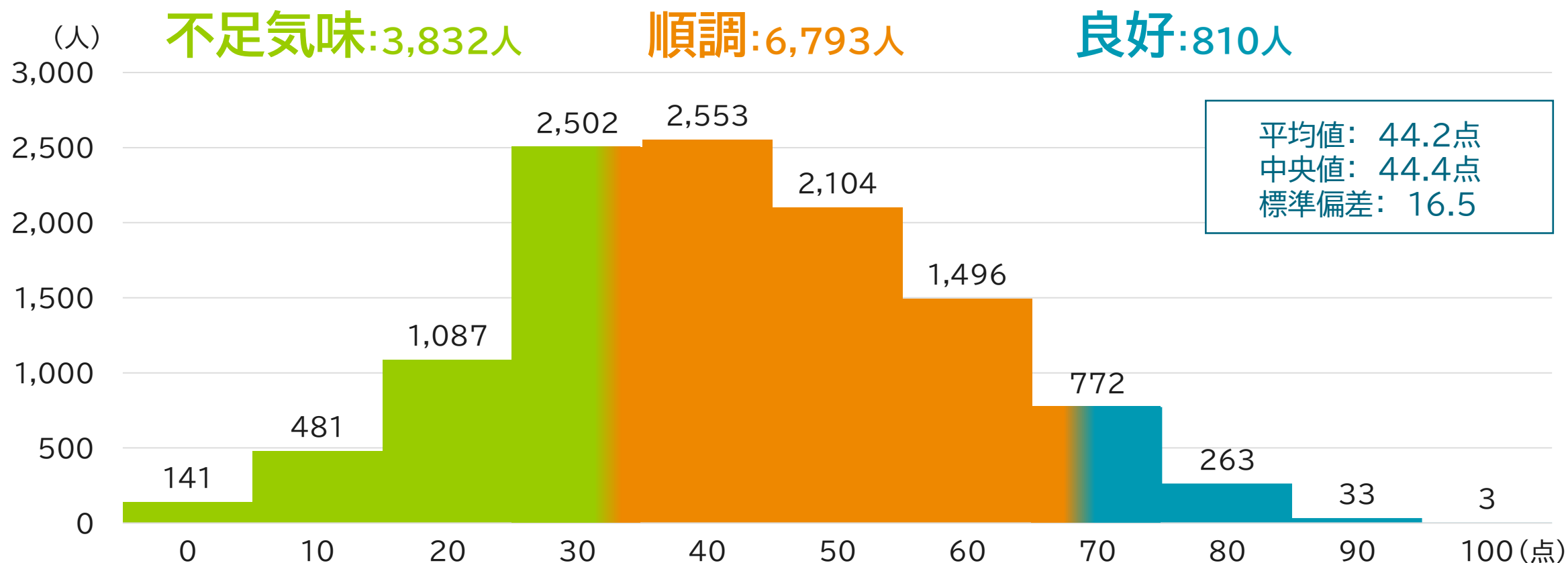
不足気味 順調 良好

0点 総合得点 100点

世間1万人分の金融リテラシー度を算出、金融リテラシー度「良好」は1割未満

- 金融リテラシー度の得点分布としては、「不足気味」3,832人(33.5%)、「順調」6,793人(59.4%)、「良好」810人(7.1%)

図表1 金融リテラシー度 得点分布

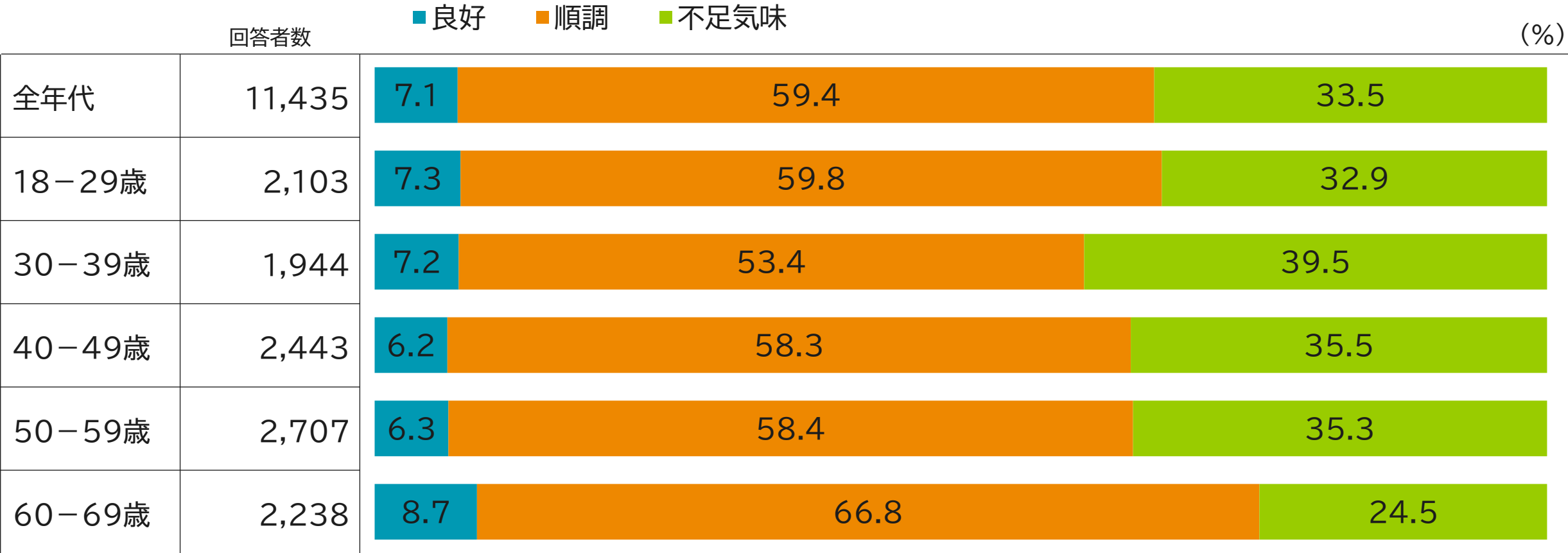


*「家計把握力」「知識と判断力」「行動力」の総合得点から、0～33点:「不足気味」、34～66点:「順調」、67～100点:「良好」として算出

金融リテラシー度のボリューム層は「順調」で全体の約6割

- 金融リテラシー度を三段階で測定したところ、全年代のうち「良好」7.1%、「順調」59.4%、「不足気味」33.5%となった

図表2 年代別 金融リテラシー度



1 金融教育受講経験と金融リテラシー度の関係

金融教育受講経験がある人は、ない人と比べ「不足気味」の割合が約2割少ない

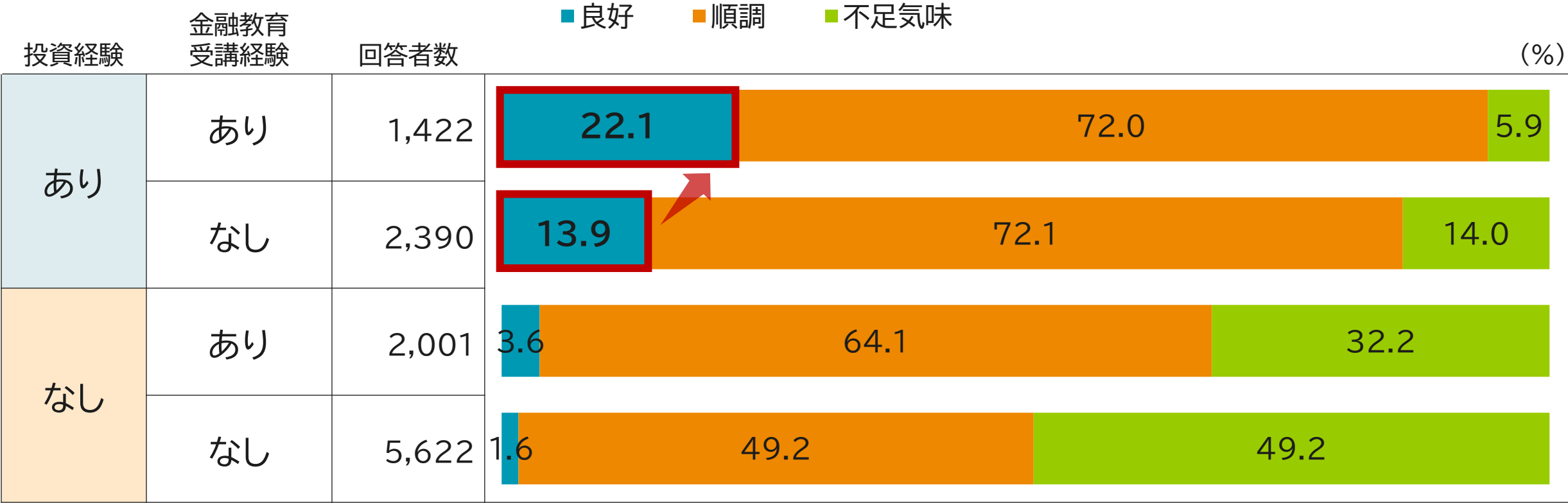
- 「不足気味」の割合は金融教育受講経験「あり」で21.3%、「なし」で38.7%、その差は17.4%

図表3 金融教育受講経験別 金融リテラシー度



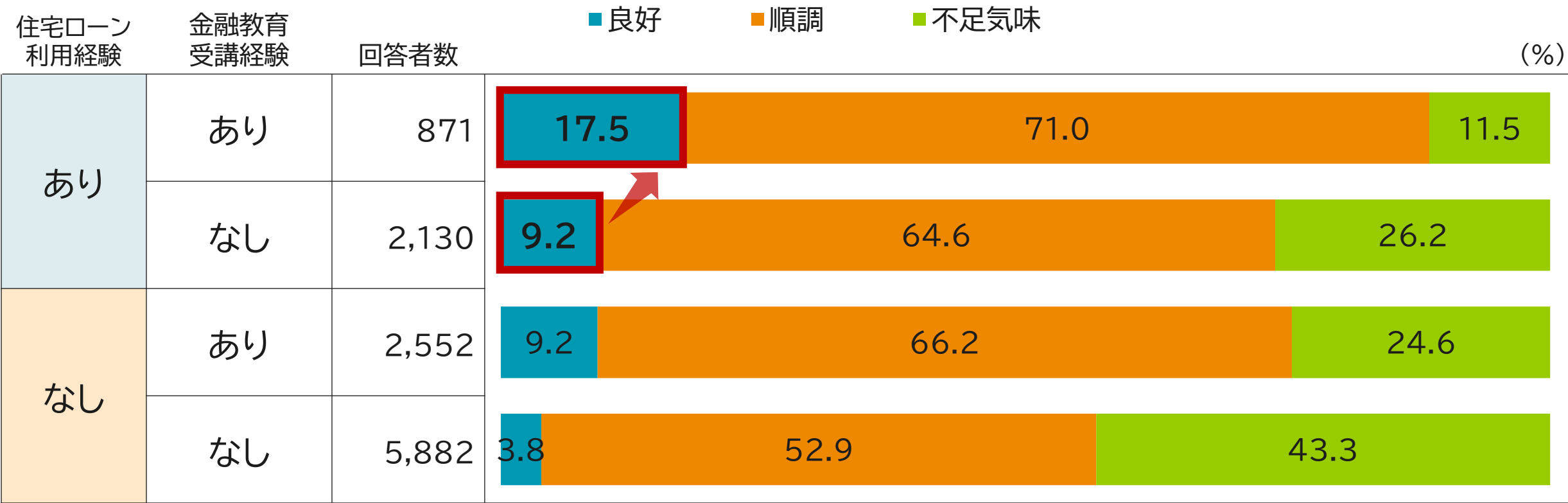
- 金融教育の受講経験に加え、具体的な実践行動となる「投資経験」を組みあわせて分析
- 投資経験「あり」の中でも、「良好」の割合は金融教育受講経験「あり」で22.1%、「なし」で13.9%と、約1.6倍の差

図表4 投資経験と金融教育受講経験別 金融リテラシー度



- 前項同様金融教育の受講経験と、「住宅ローンの利用経験」を組みあわせて分析
- 住宅ローン利用経験「あり」回答者の中でも、「良好」の割合は金融教育受講経験「あり」で17.5%、「なし」で9.2%と、約1.9倍の差

図表5 住宅ローン利用経験と金融教育受講経験別 金融リテラシー度



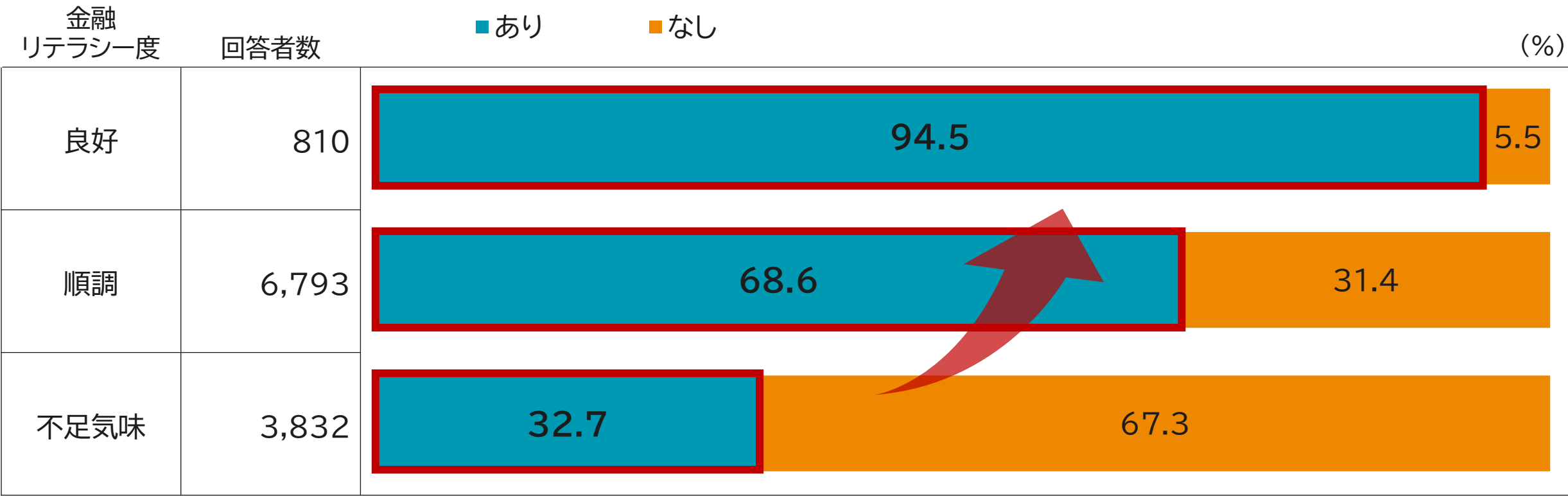
*回答者:住宅ローン利用経験あり
© SUMITOMO MITSUI TRUST BANK, LIMITED All rights reserved.

2 資産形成と金融リテラシー度の関係

金融リテラシー度が高い人の9割は、何かしら資産形成に向けた取り組みを行っている

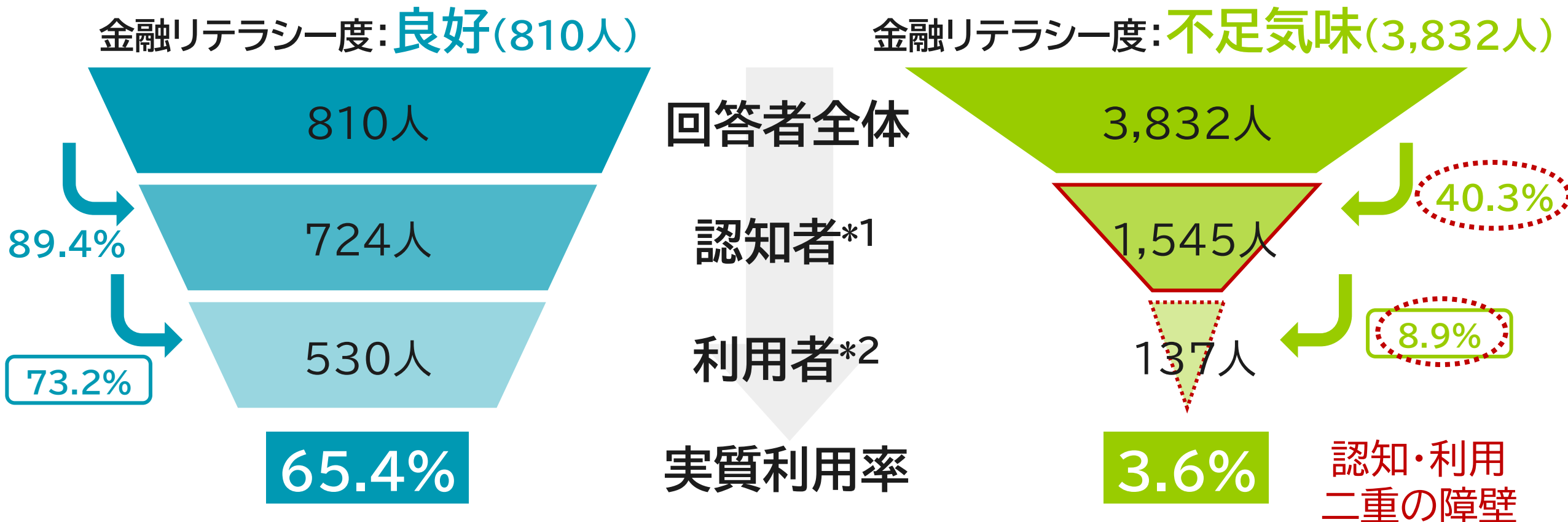
- (定期・不定期問わず)資産形成に向けた取り組みがある割合は、「良好」で94.5%、「順調」で68.6%、「不足気味」で32.7%
- 資産形成に向けた取り組み状況は、「良好」と「不足気味」で比較すると約3倍の差

図表6 金融リテラシー度別 (定期・不定期問わず)資産形成に向けての取り組み状況



- 金融リテラシー別にNISAの認知状況と利用状況を比較
- 「不足気味」(3,832人)のうち、NISAを認知しているのは40.3%(1,545人)、うちNISAを利用しているのは8.9%(137人)
- 金融リテラシー度が低い場合、制度を「認知」・「利用」それぞれが二重の障壁となっている

図表7 金融リテラシー度別 NISA利用状況



*1 認知者: 制度を知っている人 *2 利用者: 制度を知っている人のうち制度を利用している人

- 「良好」の資産形成制度の利用率は、NISAが73.2%と他制度よりも2倍以上高く、利用につながりやすい傾向
- 「不足気味」では、企業型DCや社員向け貯蓄が利用率の上位となり、反対にNISAはそこまで高くない結果となった。このことは、能動的に利用する制度よりも、職場等で整備されている制度の利用ハードルが低いことを示唆している

【図表8 金融リテラシー度別 認知した制度の利用率ランキング（複数回答可）

金融リテラシー度：良好(810人)

順位	資産形成制度	認知者数	■利用率 (%)
1	NISA (少額投資非課税制度)	724	73.2%
2	企業型DC (確定拠出年金)	470	36.9
3	個人型確定拠出年金 (iDeCo(イデコ))	619	35.4
4	社員持ち株会	482	32.4
5	社員向け貯蓄 (財形・社内預金)	549	30.3
6	ストックオプション・ 株式報酬制度など*	241	15.9

金融リテラシー度：不足気味(3,832人)

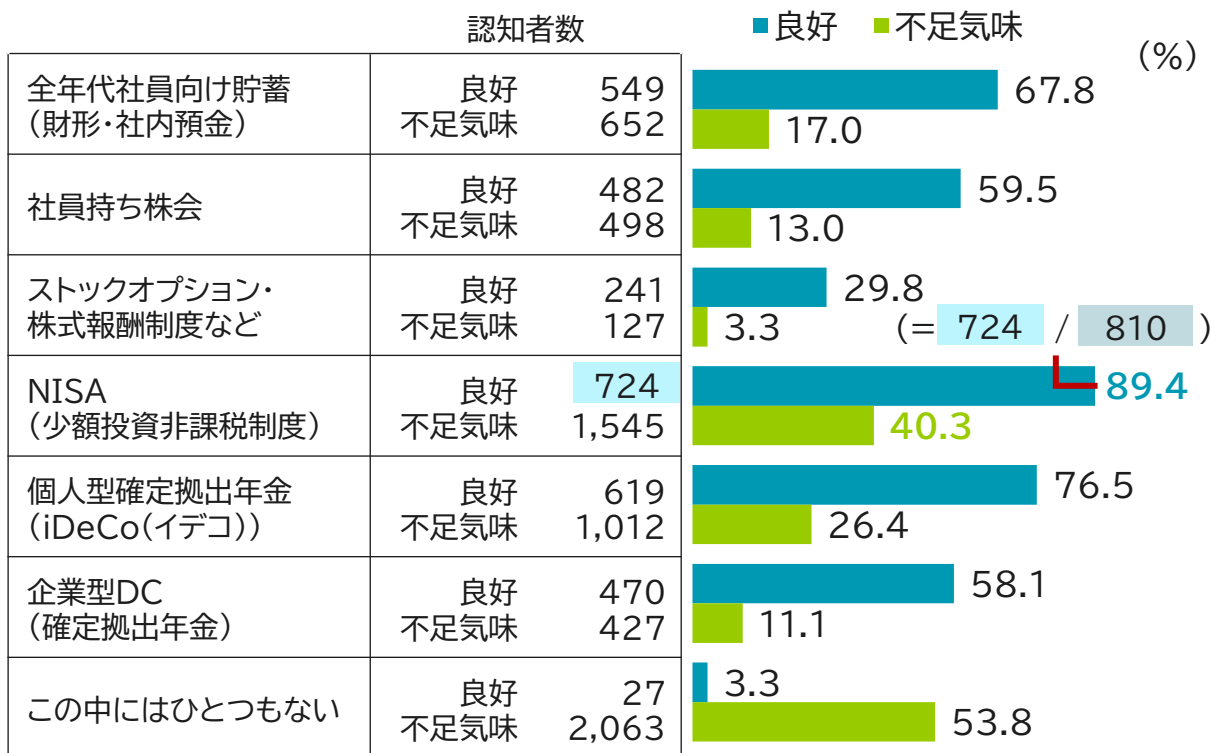
順位	資産形成制度	認知者数	■利用率 (%)
1	企業型DC (確定拠出年金)	427	12.4
2	社員向け貯蓄 (財形・社内預金)	652	11.8
3	社員持ち株会	498	9.1
4	NISA (少額投資非課税制度)	1,545	8.9%
5	個人型確定拠出年金 (iDeCo(イデコ))	1,012	4.5
6	ストックオプション・ 株式報酬制度など*	127	1.6

*業務インセンティブとしてお金ではなく自社株式を与える制度

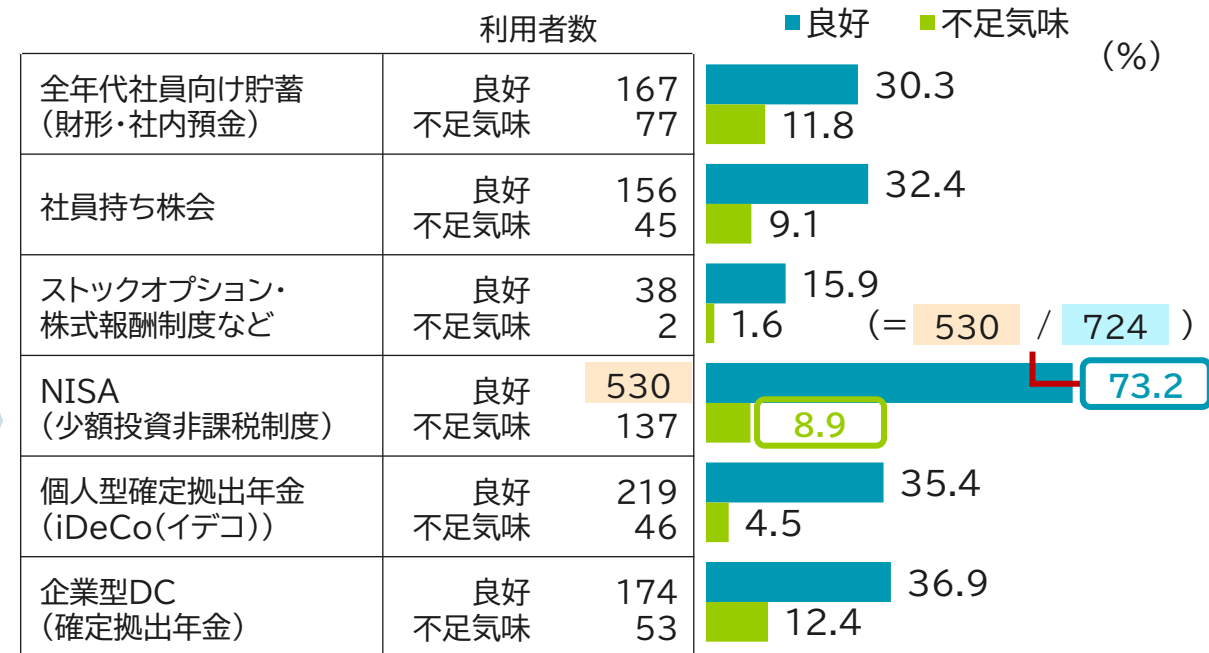
- どの資産形成制度においても、金融リテラシー度が低い人は、認知・利用で二重の障壁が確認できる
- 資産形成制度全体の利用率を一段高めるためには、制度の認知を高める取り組みに加え、金融リテラシーを高め、制度利用に対するハードルを下げる必要があることが推察される

【図表9】金融リテラシー度別 資産形成制度の認知・利用状況（複数回答可）

資産形成制度の認知率 回答者:良好 810 人 不足気味 3,832人



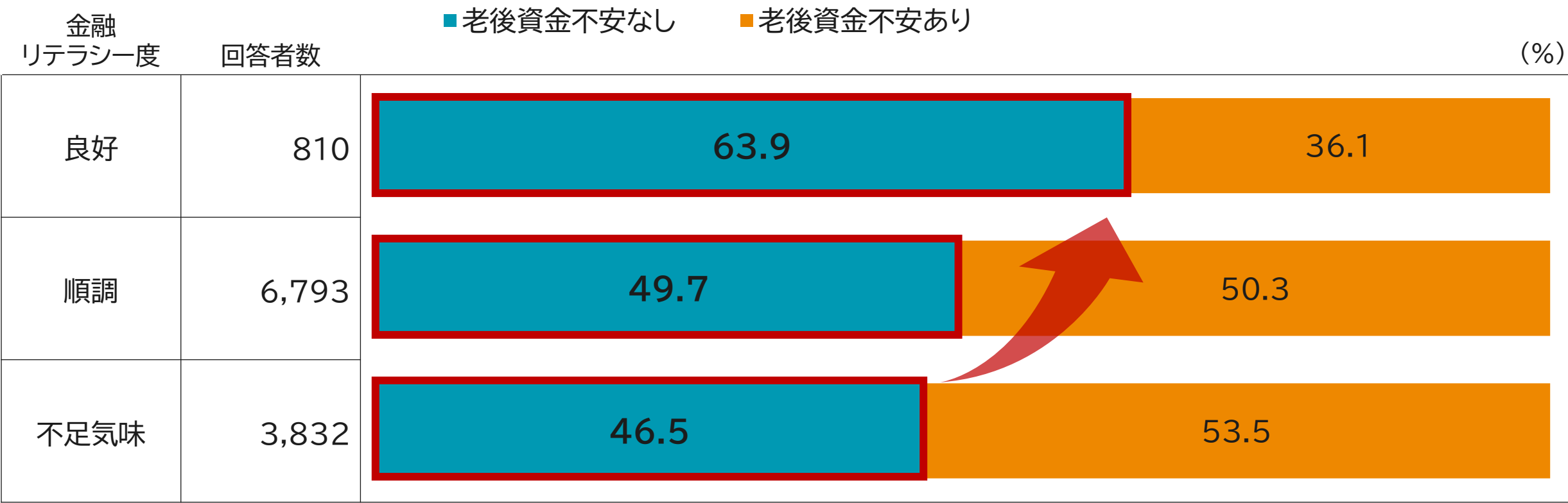
認知済み資産形成制度の利用率



3 老後不安と金融リテラシー度の関係

- 老後資金不安なしと回答した割合は、「良好」で63.9%、「順調」で49.7%、「不足気味」で46.5%
- 金融リテラシー度が高い人ほど、老後資金に不安がある割合が減少傾向にある

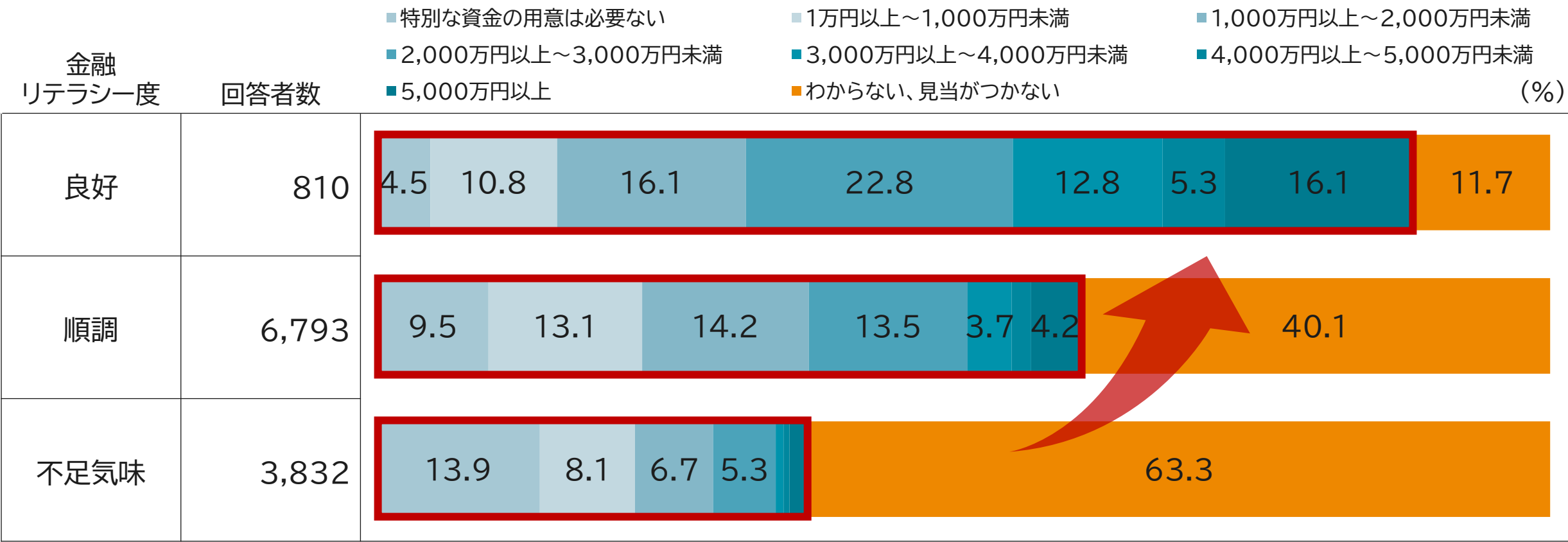
図表10 金融リテラシー度別 老後資金への不安



金融リテラシー度が高い人ほど、老後にどれくらいの額が必要になるか想定できている

- 老後資金想定額が「わからない、見当がつかない」の割合は、「良好」で11.7%、「順調」で40.1%、「不足気味」で63.3%
- 金融リテラシー度が高い人ほど、老後に必要となる額のイメージを持っている傾向がある

図表11 金融リテラシー度別 老後資金の想定額

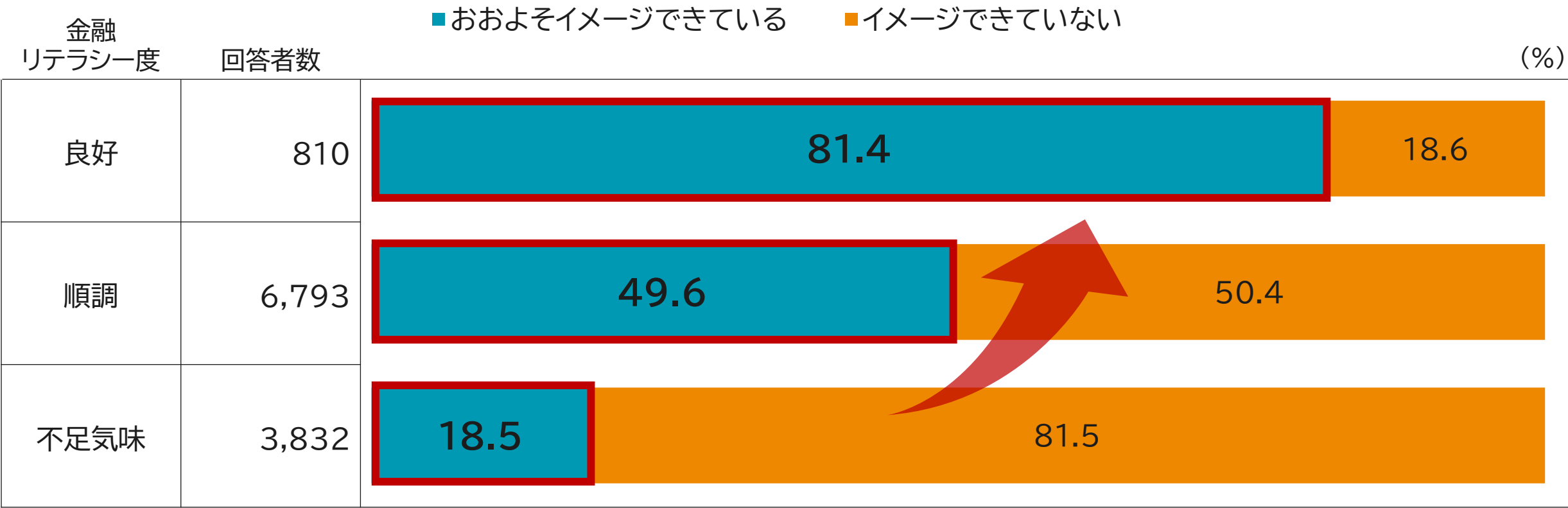


* 3.0%未満はグラフ内表記省略
© SUMITOMO MITSUI TRUST BANK, LIMITED All rights reserved.

金融リテラシー度が高い人ほど、公的年金受給額のイメージができています

- 公的年金受給額が「おおよそイメージできている」割合は、「良好」で81.4%、「順調」で49.6%、「不足気味」で18.5%
- 金融リテラシー度が高い人ほど、公的年金の受給額水準を把握している傾向がある

図表12 金融リテラシー度別 公的年金受給額の把握



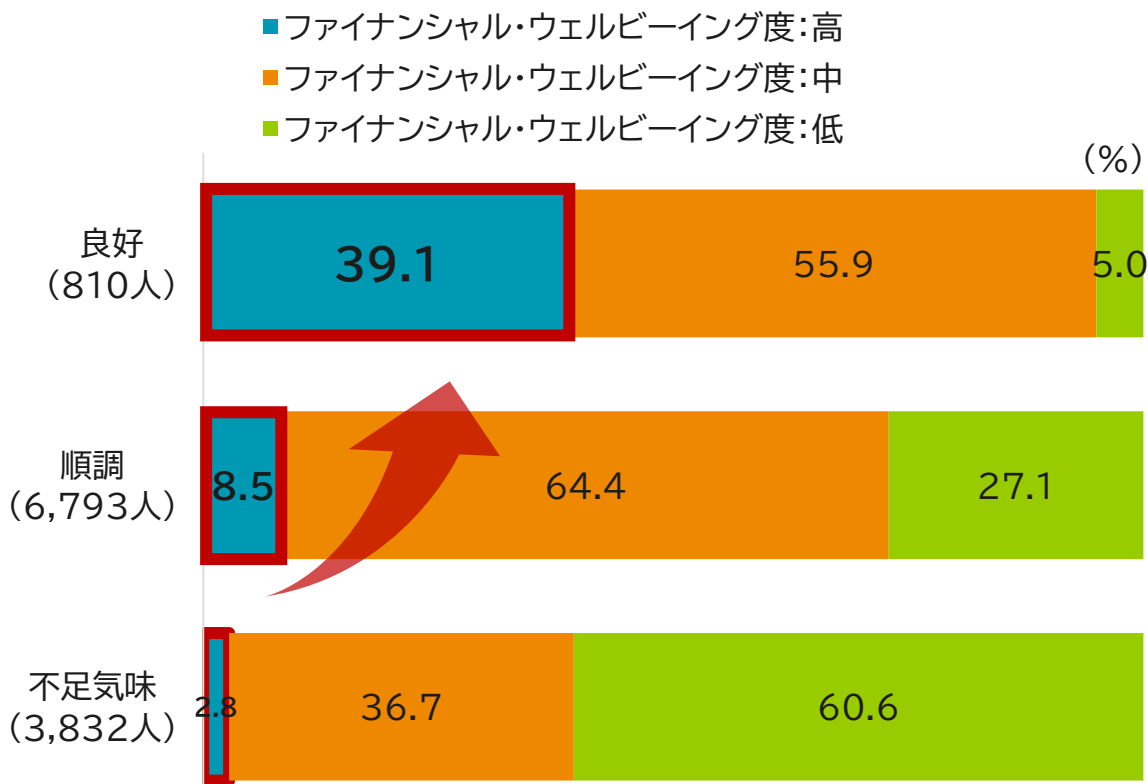
4 ウェルビーイングと金融リテラシー度の関係

金融リテラシー度を高めることは、ウェルビーイング度を高めることの一助となる

- ファイナンシャル・ウェルビーイング(FWB)度が高い割合は、「不足気味」では2.8%だが、「良好」では39.1%と大きな差
- ウェルビーイング度が高い割合は、「FWB度:低」では1.3%だが、「FWB度:高」では78.1%とこちらでも大きな差
→この結果から、金融リテラシー度を高めることは、ウェルビーイング度向上につながるものと推察

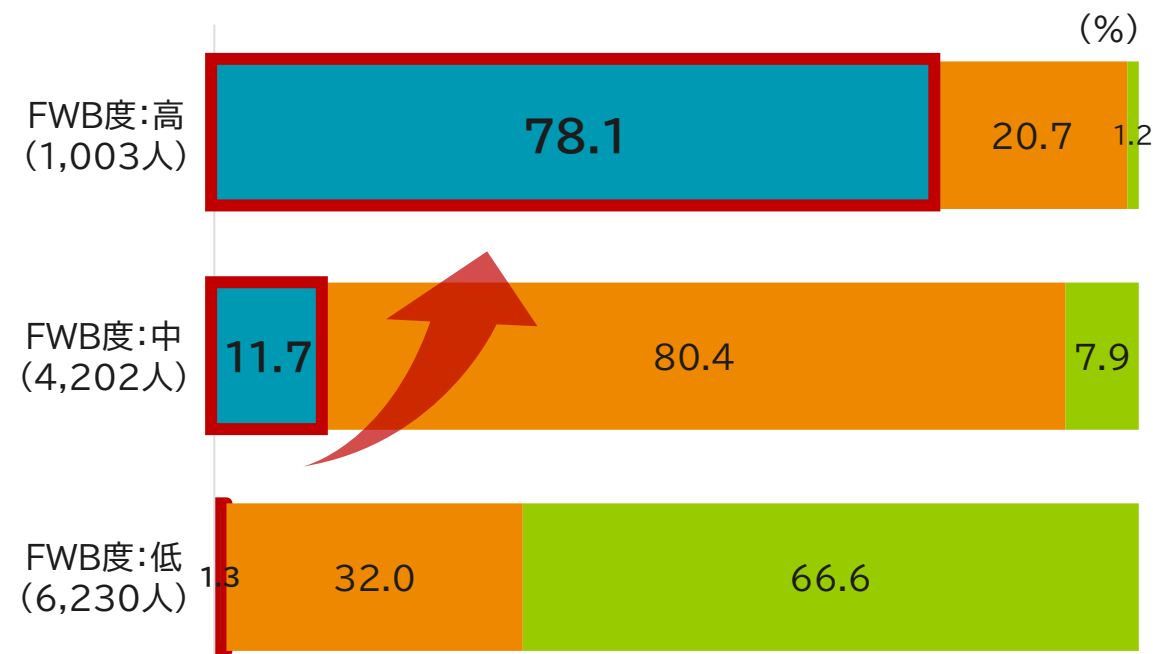
図表13 金融リテラシー度とウェルビーイング度の関係

金融リテラシー度別のファイナンシャル・ウェルビーイング(FWB)度



FWB度別のウェルビーイング度

■ ウェルビーイング度:高 ■ ウェルビーイング度:中 ■ ウェルビーイング度:低



ご留意事項

- 本資料は、情報の提供を目的として作成しており、具体的な対応についてはお客様のご判断により行っていただくことになります。お客様のご判断によって行ったご対応の結果生じた損害につきましては、弊社は一切責任を負いません
- 本資料は、作成日において弊社が信頼できると判断した情報等に基づいて作成したものであり、その情報の正確性・確実性について保証するものではありません。また、今後の金融情勢・社会情勢等の変化により、内容が変更となる場合がございます
- 本資料に係る一切の権利は、他社資料の引用部分を除いて三井住友信託銀行に属し、いかなる目的であれ本資料の一部または全部の無断での使用・複製は固くお断り致します。本資料の一部または全部を転載・複製する際は、弊社にご照会くださいますようお願い申し上げます

ご照会先

三井住友信託銀行
三井住友トラスト・資産のミライ研究所
mirai@smtb.jp

作成日: 2025年7月3日
564-25-2021